



平成 29 年 11 月 1 日現在	世帯数	2,828 世帯
	男	3,383 人
	女	3,515 人
	総人口	6,898 人

沙田神社御柱祭

秋晴れの九月二十四日、御柱締めくくりの里曳き、境内での建立祭がおこなわれました。

早朝から各御柱が、それぞれの安置所を出発して、地区ごとに揃いの法被を着た氏子達が「よいしょ、よいしょ」と声を掛け合いながら、町内を回りました。子供達も御柱に上り、木遣

りを披露し、力強く綱を引いて、老若男女、皆で力を合わせ一丸となって、御柱を神社まで無事に曳行しました。

境内に到着した御柱は冠落としをし、一本ずつクレーンで吊り上げられ、本殿を囲う様に神社四隅に建立され、地区の更なる繁栄が祈願され、七年に一度の御柱は盛大の中幕を閉じました。



島立探訪「川」テーマ

南栗の堀川を探訪します。

堀川は擬宝珠の二つ土井から奈良井川合流までの間がその名が残っています。

現在は改修されて深くなり護岸もブロック積になり川幅も狭まっています。改修前は浅く土手の状態で大水の時は溢れることもありました。

堀川は栗林堰(汐)、新村堰(汐)、和田堰(汐)の水が集まり『大土井』により堀川の南側の用水として角川へ流し利用するものと残水となる調整を二つ土井で行い残水が流れていきます。

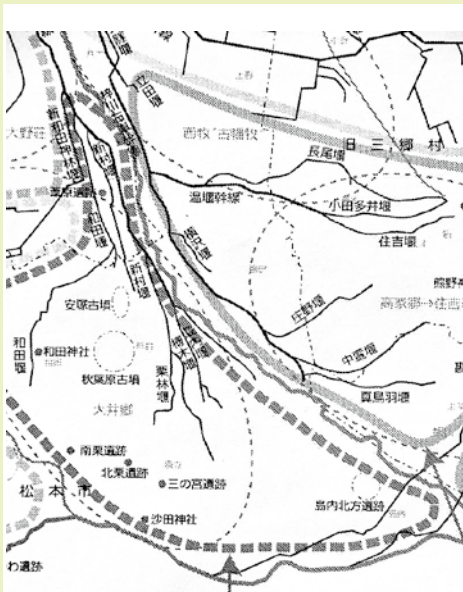
現在の長野道東あたりで『板土井』により分水をして堀川の北側の用水を確保し

ていました。最後の分水は奈良井川合流の手前で北方向へ分水して残水は奈良井川へ合流していききました。

堀川の土手には多種の木が茂り春先の山吹の花はきれいであったようです。堀川尻は大きい木はなく葎が多く護岸の役を果たしヨシキリが多く生息していました。

排水路のような堀川ですが一昔前は水量の少ない時には水遊びもできた川で、多くの生物もいる自然豊かな場所です。架かる橋も丸太2本の橋から大きな橋まで色々なものが在りました。

古代には梓川が三溝から蘇我、境あたりを流れた時もあるとの説もあり、その時の浸食で堀川の原型ができたのではないかと思われます。



7世紀後半以降、和田堰の開削とともに開発が進み大井郷があった。その後島立・新村地区で条里地割が施行されるなど、数々の水路堰の開削とともに開発が進んだ地域である。



9月号の記述にもありますが日本でも一・二を争うほど古くに開削された和田堰によって和田、新村、島立の用水が確保され島立、新村には松本平唯一の条里制(区画された土地)での水田もありました。

7・8世紀頃には大井郷という郷(律令制における末端の行政区画)が、河西部にありましたが和田堰から分水の新村堰、樽木堰などにより集落が形成されたようです。

河川のないところに多くの堰が開削され良い水田地帯へと変わりました。用水堰は分水合流をしながら新村の南部と和田の北部の残水が堀川に流入しています。

☆参考資料
大久保将生さん「我がふるさと南栗、梓川土地改良区 関東農政局 農業農村整備情報総合センター」「信濃国の秦氏」

第46回 島立地区 芸術文化祭 第12回 福祉ひろばまつり

第46回島立地区芸術文化祭・第12回福祉ひろばまつりが、11月4日・5日に開催されました。
活動発表と展示発表に多くの人が訪れ、芸術の秋を堪能した2日間になりました。

